

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月26日
【事業年度】	第39期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	株式会社ファミリー
【英訳名】	FAMILY INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西條 徳三
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市中央区東千葉2丁目8番15号
【電話番号】	043(284)1111(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 西條 善内
【最寄りの連絡場所】	千葉県千葉市中央区東千葉2丁目8番15号
【電話番号】	043(284)1111(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 西條 善内
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月		第35期 平成20年3月	第36期 平成21年3月	第37期 平成22年3月	第38期 平成23年3月	第39期 平成24年3月
売上高	千円	11,151,665	9,474,601	-	-	-
経常利益	"	575,301	431,855	-	-	-
当期純利益（は当期 純損失）	"	325,060	8,092	-	-	-
包括利益	"	-	-	-	-	-
純資産額	"	2,856,845	2,796,696	-	-	-
総資産額	"	10,456,203	10,315,971	-	-	-
1株当たり純資産額	円	459.18	449.67	-	-	-
1株当たり当期純利益 金額（は1株当たり 当期純損失金額）	"	52.24	1.30	-	-	-
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額	"	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	27.3	27.1	-	-	-
自己資本利益率	%	11.9	0.3	-	-	-
株価収益率	倍	4.69	-	-	-	-
営業活動によるキャッ シュ・フロー	千円	368,306	34,976	-	-	-
投資活動によるキャッ シュ・フロー	"	134,783	104,894	-	-	-
財務活動によるキャッ シュ・フロー	"	374,357	330,740	-	-	-
現金及び現金同等物の 期末残高	"	686,018	946,841	-	-	-
従業員数 （外、平均臨時雇用者 数）	人	166 (24)	158 (24)	- (-)	- (-)	- (-)

(注) 1. 売上高には消費税等（消費税及び地方消費税をいう、以下同じ。）は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第36期の株価収益率は、当期純損失を計上したため記載しておりません。

4. 平成21年4月1日を期日として連結子会社であった千葉クライスラー株式会社を吸収合併しており、第37期より連結財務諸表を作成しておりません。このため、第37期より連結経営指標等は記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月		第35期 平成20年3月	第36期 平成21年3月	第37期 平成22年3月	第38期 平成23年3月	第39期 平成24年3月
売上高	千円	10,460,712	8,985,783	8,918,417	10,383,142	11,221,022
経常利益	"	581,320	432,565	322,056	328,980	615,445
当期純利益(は当期 純損失)	"	325,528	6,778	305,020	400,731	288,767
持分法を適用した場合 の投資利益	"	-	-	-	-	-
資本金	"	1,387,297	1,387,297	1,387,297	1,387,297	1,387,297
発行済株式総数	千株	6,529	6,529	6,529	6,529	6,529
純資産額	千円	2,722,993	2,664,159	2,939,349	3,186,666	3,449,178
総資産額	"	10,289,695	10,215,736	10,167,816	9,488,326	9,298,097
1株当たり純資産額	円	437.67	428.36	472.64	568.32	615.24
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配 当額)	" (")	5.00 (-)	5.00 (-)	5.00 (-)	5.00 (-)	5.00 (-)
1株当たり当期純利益 金額(は1株当たり 当期純損失金額)	"	52.32	1.09	49.05	66.63	51.51
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額	"	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	26.5	26.1	28.9	33.6	37.1
自己資本利益率	%	12.6	0.3	10.9	13.1	8.7
株価収益率	倍	4.68	-	4.67	2.61	4.43
配当性向	%	9.6	-	10.2	7.5	9.7
営業活動によるキャッ シュ・フロー	千円	-	-	549,104	1,278,549	578,653
投資活動によるキャッ シュ・フロー	"	-	-	352,624	9,798	74,160
財務活動によるキャッ シュ・フロー	"	-	-	506,621	1,030,437	863,501
現金及び現金同等物の 期末残高	"	-	-	636,700	875,013	516,005
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数)	人	149 (24)	146 (24)	158 (19)	153 (22)	150 (21)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 持分法を適用した場合の投資利益については、持分法を適用する関連会社がないため、記載しておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 第36期の株価収益率及び配当性向は、1株当たり当期純損失を計上したため記載しておりません。

5. 第35期及び第36期の営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー、現金及び現金同等物の期末残高については、連結財務諸表を作成しているため記載を省略しております。

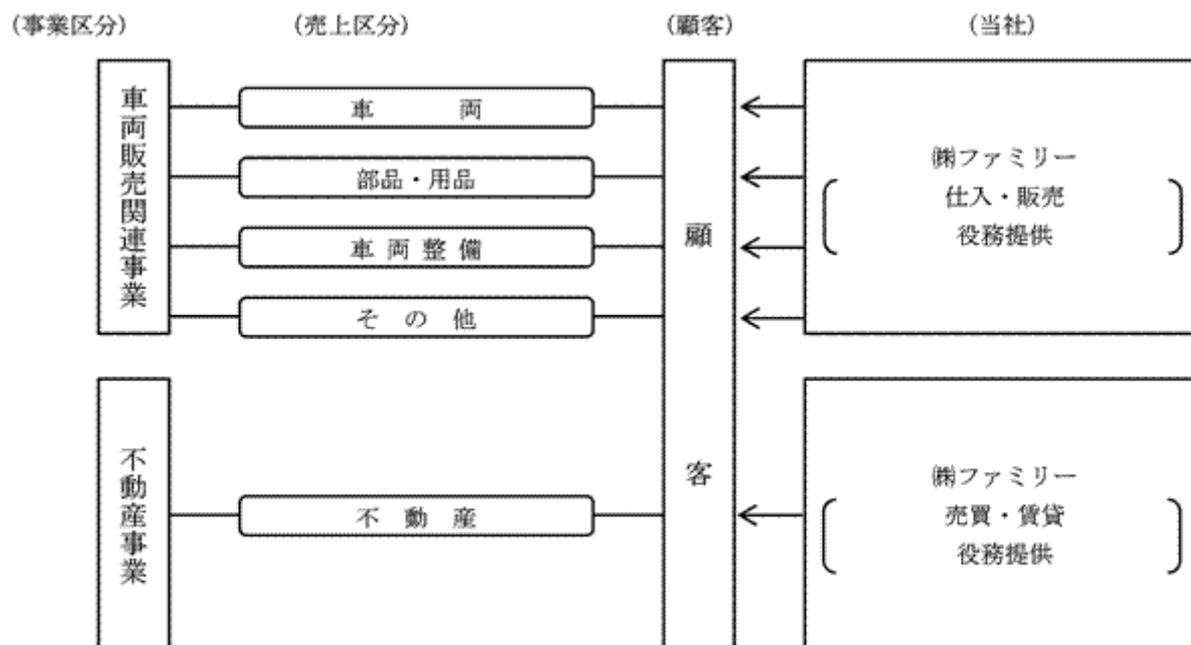
2【沿革】

年月	沿革
昭和48年7月	株式会社ファミリーを設立（資本金3,000千円、本店所在地 東京都墨田区）。
昭和51年6月	鎌ヶ谷営業所を開設し、中古車販売業を開始。
昭和54年5月	白井サービス工場を開設し、アフターサービスの強化を図る。
昭和56年5月	本社事務所を白井工場内に移転。
昭和57年10月	事務の合理化、省力化と顧客サービスを図るためコンピュータを導入、また業界初の中古車保証書を発行。
昭和59年9月	株式会社オートラマファミリー（当社出資比率20%、(株)フォードファミリーに社名変更）と販売に関する業務提携を行い、オートラマ車の取扱いを開始。
昭和60年10月	本店所在地を千葉県船橋市へ移転。
昭和61年2月	鎌ヶ谷営業所を増改築し、自動車展示場をデパート化（3階建、展示面積延1,800㎡）するとともに、本社事務所を同ビル内に移転。
3月	新車部門の販売体制強化のため株式会社オートラマファミリー（(株)フォードファミリーに社名変更）を100%子会社とする。
10月	欧米自動車工業株式会社と販売に関する業務提携を行い、ロールスロイス車、ベンツ車、BMW車、アウディ車等の販売を開始し、外車部門に進出。
昭和62年2月	ローバー・ジャパン株式会社及びアニック株式会社の特約販売店となる。
4月	オリックスレンタカー株式会社とフランチャイズ契約を締結し、レンタカー事業を開始。レンタカー第1号店として東千葉店を千葉営業所に併設。
6月	日商岩井自動車販売株式会社（日商岩井株式会社100%子会社）の特約販売店となり、同社が並行輸入する外車の販売を開始。
7月	カーリース事業を開始。
昭和63年2月	社団法人日本証券業協会に店頭売買銘柄として登録。
5月	GM車の特約販売店となる。
12月	不動産部門を設置。
平成元年1月	クライスラー・ジャパンセールス株式会社（現社名クライスラー日本(株)）の特約販売店となる。
3月	ジャガー・ジャパン株式会社（現社名ジャガー・ランドローバー・ジャパン(株)）の特約販売店となる。
6月	株式会社オートザムの特約販売店となる。
12月	子会社として株式会社ユーノスファミリーを設立（当社100%出資）。
平成2年11月	フォルクスワーゲンアウディ日本株式会社（現社名フォルクスワーゲングループジャパン(株)）の特約販売店となる。
平成3年4月	本社ビル（本社、店舗兼賃貸マンション）を新築（8階建、面積延4,731㎡）し、本店所在地を千葉県千葉市に移転。
平成10年2月	ボルシェジャパン株式会社の特約販売店となる。
平成10年4月	アウディジャパン株式会社の特約販売店となる。
平成11年11月	フィアットオートジャパン株式会社（現社名フィアットグループオートモビリティズジャパン(株)）の特約販売店となる。
平成12年5月	ランドローバー・ジャパン株式会社（現社名ジャガー・ランドローバー・ジャパン(株)）の特約販売店となる。
平成12年12月	子会社として千葉クライスラー株式会社を設立（当社100%出資 連結子会社）。
平成13年12月	株式会社フォードファミリー（当社100%出資）及び株式会社ユーノスファミリー（当社100%出資）を清算。
平成16年4月	ブジョー・ジャポン株式会社（現社名ブジョー・シトロエン・ジャポン(株)）の特約販売店となる。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成21年4月	千葉クライスラー株式会社（当社100%出資 連結子会社）を吸収合併。
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現 大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード））に上場。

3【事業の内容】

当社は、千葉県を主な販売区域としており、車両販売関連事業として新車（主として輸入車）、中古車、自動車の部品・用品の仕入・販売、及び、自動車の修理加工を行っております。また、自動車のレンタル業、損害保険等の保険代理業務等を行っているほか、不動産事業として不動産の売買、賃貸を行っております。

以上述べた事業を事業統計図によって示すと次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
150(21)	37.2	8.4	4,972

セグメントの名称	従業員数(人)
車両販売関連事業	138 (20)
不動産事業	1 (-)
報告セグメント計	139 (20)
全社(共通)	11 (1)
合計	150 (21)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は年間平均人員を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好であり、現在特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度における我が国経済は、東日本大震災及び原子力発電所の事故の影響による厳しい状況にある中で、緩やかではありますが回復傾向を示していたものの、欧州の財政問題等を背景とした海外景気の低迷に伴う円高や、タイ国の大洪水の影響等により企業の業績は非常に不安定なものとなりました。

当自動車業界におきましても、大震災の影響による部品等の供給問題及び生産活動の低下により、上半期は新車販売が前年を下回る台数で推移いたしました。昨年12月に再開したエコカー補助金の効果もあり下半期は新車販売が好転し回復基調となってまいりました。国内全体の新車登録台数は4,753千台（前期比3.3%増）となりました。一方、外国メーカー車の新車販売台数は223千台（前年比22.1%増）となりました。

このような状況において、当社は営業拠点当たりの営業社員を増員することで営業力を推進し、既存拠点の増販・増収の実現を経営方針の中心として掲げ、収益力の向上に努めてまいりました。

その結果、当事業年度の売上高は11,221百万円（前年同期比8.1%増）となりました。利益面につきましても車両販売関連事業で経費削減や既存拠点の収益力の強化により利益率の改善に努めた結果、営業利益が661百万円（前年同期比67.0%増）、経常利益が615百万円（前年同期比87.1%増）となりました。当期純利益につきましては、税効果会計の影響により288百万円（前年同期比27.9%減）となりました。

セグメント別の状況は下記のとおりです。

（車両販売関連事業）

車両販売関連事業におきましては、昨年12月に再開したエコカー補助金の効果による販売台数の増加に加え、コスト削減努力を継続した結果、車両販売関連事業の売上高は、11,128百万円（前年同期比9.1%増）、セグメント利益は765百万円（前年同期比19.3%増）となりました。

（不動産事業）

不動産事業におきましては、西船橋店の賃貸ワンルームマンション等における安定的な賃貸収入が当事業年度も引続き計上できましたが、販売用不動産の評価損の原価計上等により、売上高は92百万円（前年同期比48.6%減）、セグメント損失は104百万円（前年同期はセグメント損失245百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下、資金という。）は516百万円（前事業年度末は875百万円）となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は578百万円（前年同期は1,278百万円の取得）となりました。これは主に車両販売が好調であり税引前当期純利益を604百万円計上したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は74百万円（前年同期は9百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得により67百万円、及び有形固定資産の除却により10百万円支出したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は863百万円（前年同期は1,030百万円の使用）となりました。これは主に借入の返済による支出であります。

2【仕入及び販売の状況】

(1) 商品仕入実績

当事業年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
車両販売関連事業(千円)	8,763,308	123.0
不動産事業(千円)	-	-
合計(千円)	8,763,308	123.0

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 販売実績

当事業年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
車両販売関連事業(千円)	11,128,701	109.1
不動産事業(千円)	92,321	51.4
合計(千円)	11,221,022	108.1

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

今後の見通しにつきましては、原油価格の高騰や電力不足の懸念等、景気は不透明な環境が続くものと思われま。自動車業界につきましては、エコカー補助金の効果等により新車販売は好調に推移するものと思われま。補助金の終了後にはその反動による新車販売の減少が懸念されるなど、自動車業界を取り巻く環境も厳しいと予想されま。が、当社といたしましては、より一層の既存店舗の営業力の強化と利益率の改善に努め、安定的な収益の確保を目指してまいりま。

しかしながら、景気等の状況によっては、更に厳しい消費の冷え込みも予想されま。ので、更なる経営努力により業績の向上に努めてまいりま。所存であります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 販売用不動産の保有について

当社は販売用不動産を1,239,038千円所有しております。今後の景気の動向や地価の下落の状況によっては、保有が長期化したり、業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

(2) メーカーとの特約販売契約について

当社は複数メーカーとの間に特約販売契約を締結しておりますが、メーカーの再編、販売網の再構築等の影響で契約の継続が行われないこととなる場合には、業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 関連当事者との取引について

関連当事者との取引

役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者	西條徳三	-	-	当社代表取締役	被所有 直接 25.7%	-	-	当社の借入金に対する債務被保証	4,482,656	-	-
								当社の仕入債務に対する債務被保証等	206,080	-	-
								当社の預り敷金に対する債務被保証	20,410	-	-
								当社の営業保証金としての被担保提供	68,072	-	-

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

当社の金融機関からの借入4,482,656千円に対して、代表取締役西條徳三氏が個人として債務保証を行っております。

当社の仕入債務206,080千円に対して、代表取締役西條徳三氏が個人として債務保証を行っております。

当社の預り敷金20,410千円に対して、代表取締役西條徳三氏が個人として債務保証を行っております。

ポルシェジャパン株式会社に対する営業保証金として、代表取締役西條徳三氏が個人として担保提供を行っております。

金融機関からの借入及び仕入債務、預り敷金に対しての債務保証に関する代表取締役西條徳三氏への保証料の支払はありません。

2. 上記取引には消費税等は含んでおりません。

5【経営上の重要な契約等】

契約年月	契約先	契約内容	契約期間
平成2年11月	フォルクスワーゲングループ ジャパン(株)	フォルクスワーゲン車及び自動車部品 ・用品の仕入	1年ごとの自動更新
平成10年2月	ボルシェジャパン(株)	ボルシェ車及び自動車部品・用品の仕 入	1年ごとの自動更新
平成16年4月	プジョー・シトロエン・ジャポ ン(株)	プジョー車及び自動車部品用品の仕入	平成24年1月から 平成24年12月まで

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。この財務諸表の作成にあたりまして、決算日における資産・負債の金額、事業年度における収入・費用の金額に影響を与える見積りは、主に繰延税金資産・負債、貸倒引当金、賞与引当金等であり、継続して評価を行っております。

なお、見積り及び判断・評価については、過去の実績や予想に基づいて行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

(2) 財政状態の分析

流動資産

当事業年度末における流動資産の残高は3,983百万円（前事業年度末4,119百万円）となり、135百万円減少いたしました。主な原因は、現金及び預金が358百万円減少したことによるものです。

固定資産

当事業年度末における固定資産の残高は5,314百万円（前事業年度末5,369百万円）となり、54百万円減少いたしました。主な原因は、減価償却費の計上等により有形固定資産が53百万円減少したことによるものです。

流動負債

当事業年度末における流動負債の残高は4,002百万円（前事業年度末4,374百万円）となり、371百万円減少いたしました。主な原因は、1年内返済予定の長期借入金が918百万円減少したことによるものです。

固定負債

当事業年度末における固定負債の残高は1,846百万円（前事業年度末1,927百万円）となり、81百万円減少いたしました。主な原因は、長期借入金が89百万円減少したことによるものです。

純資産

当事業年度末における純資産の部の残高は3,449百万円（前事業年度末3,186百万円）となり、262百万円増加いたしました。主な原因は当期純利益を288百万円計上したことによるものです。

(3) 経営成績の分析

当事業年度の売上高は、主に車両販売関連事業でエコカー補助金等の効果により販売台数が増加したことにより11,221百万円（前年同期比8.1%増）となりました。利益面につきましても経費削減や既存拠点の収益力の強化により、利益率の改善に努めました結果、営業利益が661百万円（前年同期比67.0%増）、経常利益が615百万円（前年同期比87.1%増）となりました。当期純利益につきましては、税効果会計の影響により288百万円（前年同期比27.9%減）となりました。

(4) キャッシュ・フローの分析

当事業年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）残高は516百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は578百万円となりました。これは主に税引前当期純利益を604百万円計上したことによるものです。

投資活動の結果使用した資金は74百万円となりました。これは主にレンタカーの増車等による有形固定資産の取得67百万円の支出によるものです。

財務活動の結果使用した資金は863百万円となりました。これは主に借入の返済による支出であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資総額は109百万円であります。その主なものは、車両販売関連事業におけるレンタカー取得費用41百万円であります。

2【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、次のとおりであります。

平成24年3月31日現在

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数(人) 注9	
			建物	構築物	賃貸不動産及び貸与資産	土地(面積㎡)	その他注2		合計
本社 (千葉市中央区所在)	車両販売関連 不動産	事務所	71,463	4,351	-	427,619 (4,431.76)	9,940	513,374	12 (1)
白井サービス工場 (白井市所在)	車両販売関連	整備工場	25,210	601	-	90,660 (4,553.97)	1,620	118,091	-
ジャガー千葉中央 (千葉市中央区所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注3	118,905	1,923	-	-	7,878	128,707	4 (1)
ジャガー柏 (柏市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注4	70,380	551	-	291,593 (3,133.18)	3,513	366,039	3
ジャガー西船橋 (船橋市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注7	127,340	1,093	-	224,000 (905.00) [911.00]	8,351	360,785	3
ランドローバー千葉中央 (千葉市中央区所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注3	-	-	-	-	-	-	4
ランドローバー柏 (柏市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注4	-	-	-	-	-	-	3
ランドローバー西船橋 (船橋市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注7	-	-	-	-	-	-	3
ボルシェセンター千葉 (千葉市中央区所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注3	68,406	3,468	-	-	3,809	75,684	6
ボルシェセンター柏 (柏市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注4	79,934	551	-	-	3,613	84,099	6
ボルシェセンター市川 (市川市所在)	車両販売関連 不動産	営業店舗 整備工場 賃貸ビル	120,853	5,306	89,596	227,991 (1,502.34)	5,946	449,693	4 (1)
フォルクスワーゲン習志 野 (船橋市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場	155,605	5,449	-	200,164 (1,538.84)	4,372	365,592	12 (1)
フォルクスワーゲン柏 (柏市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注4	53,102	685	-	-	3,980	57,768	12 (1)
フォルクスワーゲン木更 津 (木更津市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注5	6,293	19,722	-	- [1,835.24]	3,534	29,549	5 (2)
フォルクスワーゲン松戸 (松戸市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場	3,690	460	-	- [1,785.12]	1,947	6,098	8
アウディ柏 (流山市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場	74,863	965	-	83,210 (627.33)	6,258	165,297	9

事業所名(所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					合計	従業員数 (人) 注9
			建物	構築物	賃貸不動産 及び貸 与資産	土地 (面積㎡)	その他 注2		
ブジョー千葉中央 (千葉市中央区所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注3	-	-	-	-	-	-	2
ブジョー船橋 (船橋市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場	3,056	-	-	- [593.15]	3,536	6,593	9
ブジョー柏 (柏市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場	273,146	1,171	-	225,746 (1,617.04)	10,511	510,574	9 (1)
ブジョー成田 (成田市所在)	車両販売関連 不動産	営業店舗 整備工場 賃貸ビル 注6	43,296	13,673	8,384	283,303 (1,960.86)	854	349,513	3
フィアット・アルファロ メオ千葉 (千葉市稲毛区所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場	23,646	944	-	162,912 (1,894.14)	2,078	189,582	7
フィアット・アルファロ メオ船橋東 (船橋市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注8	3,024	1,275	-	- [2,275.00]	2,058	6,358	5
フィアット・アルファロ メオ成田 (成田市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場 注6	-	-	-	-	-	-	3
クライスラー・ジープ・ ダッジ柏 (流山市所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場	2,399	2,179	-	- [1,183.00]	3,033	7,612	6
クライスラー・ジープ・ ダッジ千葉 (千葉市稲毛区所在)	車両販売関連	営業店舗 整備工場	176,154	2,701	-	131,270 (1,425.21)	7,444	317,570	7
野田中古車センター (野田市所在)	車両販売関連 不動産	営業店舗 整備工場 賃貸店舗	4,943	335	16,629	413,499 (3,819.02) [3,724.25]	21	435,430	2 (1)
オリックスレンタカー東 千葉 (千葉市中央区所在)	車両販売関連	営業店舗 注3	97	-	-	-	16	114	1 (5)
オリックスレンタカー津 田沼 (習志野市所在)	車両販売関連	営業店舗	32	66	36,619	- [521.21]	-	36,815	1 (4)
オリックスレンタカー木 更津 (木更津市所在)	車両販売関連	営業店舗 注5	-	-	-	-	-	-	1 (3)
オリックスレンタカー成 田駅前 (成田市所在)	車両販売関連	営業店舗 注6	54	99	-	-	-	153	-
オリックスレンタカー鎌 ヶ谷大仏 (船橋市所在)	車両販売関連	営業店舗 注8	-	224	-	-	-	224	-
厚生施設予定地 (熱海市所在)	車両販売関連		-	-	-	1,227 (487.00)	-	1,227	-
共同住宅 (千葉市中央区所在)	不動産	賃貸マン ション	-	-	172,387	-	-	172,387	-
共同住宅 (船橋市所在)	不動産	賃貸マン ション	-	-	232,732	-	-	232,732	-
計			1,505,903	67,801	556,350	2,763,197 (27,895.68) [12,827.97]	94,323	4,987,576	150 (21)

(注) 1. 土地のうち [] 内数字は賃借中のものの面積を示し、外数であります。

2. 「その他」の内容は次のとおりであります。

機械及び装置	69,814千円
車両運搬具	7,250
工具、器具及び備品	17,259
計	<u>94,323</u>

3. ジャガー千葉中央、ランドローバー千葉中央、ボルシェセンター千葉、プジョー千葉中央、オリックスレンタカー東千葉は同一敷地内で営業の千葉複合店です。
4. ジャガー柏、ランドローバー柏、ボルシェセンター柏、フォルクスワーゲン柏は同一敷地内で営業の柏複合店です。
5. オリックスレンタカー木更津はフォルクスワーゲン木更津に併設しております。
6. プジョー成田、フィアット・アルファロメオ成田、オリックスレンタカー成田駅前は同一敷地内で営業の成田複合店です。
7. ジャガー西船橋、ランドローバー西船橋は同一敷地内で営業の西船橋複合店です。
8. オリックスレンタカー鎌ヶ谷大仏店はフィアット・アルファロメオ船橋東に併設しております。
9. 従業員数欄の()は臨時従業員の年間平均雇用人員を示し、外数であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

設備投資については、今後の景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。

なお、当事業年度末現在における重要な設備の新設及び除却の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,000,000
計	26,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,529,114	6,529,114	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	6,529,114	6,529,114	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成16年4月1 日～平成17年3 月31日(注)	-	6,529,114	-	1,387,297	940,000	348,297

(注) 旧商法第289条第2項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振替えたものであります。

(6)【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	12	10	15	-	-	549	586	-
所有株式数(単元)	-	1,294	19	585	-	-	4,604	6,502	27,114
所有株式数の割合(%)	-	19.90	0.29	9.00	-	-	70.81	100.00	-

(注)1.自己株式922,913株は、「個人その他」に922単元、「単元未満株式の状況」に913株含めて記載しております。

2.上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1単元含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
西條 徳三	千葉県千葉市若葉区	1,436	22.00
西條 清子	千葉県千葉市若葉区	448	6.87
ファミリー従業員持株会	千葉県千葉市中央区東千葉2-8-15	404	6.19
(株)損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿1-26-1	336	5.15
あいおいニッセイ同和損害保険(株)	東京都渋谷区恵比寿1-28-1	311	4.77
(常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行(株))	(東京都港区浜松町2-11-3)		
三菱UFJニコス(株)	東京都文京区本郷3-33-5	284	4.35
(株)千葉銀行	千葉県千葉市中央区千葉港1-2	234	3.59
西條 善内	千葉県八千代市	210	3.22
(株)ジャックス	北海道函館市若松町2-5	181	2.77
(株)オリエンコーポレーション	東京都千代田区麹町5-2-1	105	1.61
計	-	3,949	70.48

(注)上記のほか、自己株式が922千株あります。

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 922,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,580,000	5,580	-
単元未満株式	普通株式 27,114	-	-
発行済株式総数	6,529,114	-	-
総株主の議決権	-	5,580	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権数1個)含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)ファミリー	千葉県中央区東千葉2-8-15	922,000	-	922,000	14.1
計	-	922,000	-	922,000	14.1

(9)【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないもの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	960	172,160
当期間における取得自己株式	-	-

(注)当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
売却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	922,913	-	922,913	-

- (注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。
2. 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、将来の事業展開を考慮しつつ、内部留保の充実により企業体質の強化を図りながら、安定した利益配当を維持することが重要であると考えております。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。この剰余金の配当の決定機関は、株主総会であります。

当事業年度の利益配当につきましては、上記の方針に基づき、1株当たり5円の配当を実施することに決定いたしました。

なお、内部留保に対する当社の方針としましては、企業体質の強化ならびに新規出店、既存店舗の改装等を中心に有効に投資し、業容の拡大に努めてまいり所存であります。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として、中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たりの配当額(円)
平成24年6月26日 定時株主総会決議	28,031	5

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	305	254	232	247	250
最低(円)	220	125	136	174	169

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所JASDAQにおけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	187	185	182	193	210	250
最低(円)	177	169	170	180	187	203

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)	営業本部長	西條 徳三	昭和10年3月5日生	昭和48年7月 ㈱ファミリー設立、 代表取締役社長に就任(現任) 昭和56年3月 ㈱ファミリー商事設立、 代表取締役社長に就任(現任) 昭和61年7月 当社営業本部長に就任(現任) 平成12年12月 千葉クライスラー㈱設立、 代表取締役社長に就任	(注)2	1,436
専務取締役	管理本部長兼経 理部長	西條 善内	昭和18年9月17日生	昭和48年7月 当社入社、取締役総務部長に就任 昭和59年8月 当社常務取締役に就任 昭和61年1月 当社経理部長に就任(現任) 昭和61年7月 当社管理本部長に就任(現任) 平成5年6月 当社専務取締役に就任(現任)	(注)2	210
常務取締役	総務部長	湯浅 茂弘	昭和43年9月7日生	平成3年4月 当社入社 平成13年6月 当社取締役に就任 平成13年6月 当社総務部長に就任(現任) 平成18年6月 当社常務取締役に就任(現任)	(注)2	22
取締役	営業部長	富田 啓充	昭和36年9月24日生	平成元年6月 日商岩井自動車販売株式会社入社 (現プジョー東京株式会社) 平成16年7月 同社営業本部統括部長に就任 平成20年1月 当社入社 平成20年1月 当社営業部長就任(現任) 平成21年6月 当社取締役に就任(現任)	(注)2	3
常勤監査役		江南 悌信	昭和22年8月22日生	昭和46年4月 日産自動車株式会社入社 平成7年1月 日産チェリー千葉販売株式会社 (現日産プリンス千葉販売株式会 社)常務取締役に就任 平成11年6月 当社入社 平成11年6月 当社営業部長就任 平成21年6月 当社監査役に就任(現任)	(注)3	12
監査役		清水 貴志	昭和35年6月10日生	昭和58年4月 共栄火災海上保険(相)(現共栄 火災海上保険㈱)入社 平成4年4月 同社課長に就任 平成6年6月 当社監査役に就任(現任) 平成16年4月 同社副部長に就任 平成21年4月 共栄火災海上保険㈱東関東支店副 支店長に就任 平成24年4月 共栄火災海上保険㈱本店営業部副 部長に就任(現任)	(注)4	-
監査役		佐原 堅次	昭和25年1月27日生	昭和48年4月 株式会社千葉銀行入行 平成15年4月 同執行役員成田支店長就任 平成16年6月 東方エージェンシー株式会社常務 取締役就任 平成20年6月 ちばぎんディーシーカード株式会 社代表取締役社長 平成23年6月 ちば債権回収株式会社取締役相談 役に就任(現任) 平成23年6月 当社監査役に就任(現任)	(注)4	-
計						1,683

(注)1. 監査役清水貴志及び佐原堅次は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2. 平成23年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

3. 平成21年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

4. 平成23年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 専務取締役 西條善内は、代表取締役社長 西條徳三の弟であります。

6. 監査役 清水貴志は、代表取締役社長 西條徳三の娘婿であります。

7. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。

補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
斉藤 嘉昭	昭和12年1月2日生	昭和25年4月 ㈱斉藤製作所入社 昭和50年9月 同社代表取締役 平成11年4月 赤帽サイショウ急便開業	-

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

・企業統治の体制の概要

当社は取締役会を月1回定期的に開催し、取締役会規程を基に経営ならびに業務執行に関する決定・報告を行っております。また急を要する重要案件については適時に取締役会を開催し、迅速な意思決定と業務執行が行える体制にしております。

当社は社外取締役を選任しておりません。

当社は監査役制度を採用しております。監査役のうち2名は社外監査役であり特別な利害関係はありません。

経営の監視機能といたしましては、監査役会により取締役の業務執行状況の厳正な監査と経営に対する助言・提言が行われております。

・企業統治の体制を採用する理由

当社の取締役会の開催、運営及び業務執行については、経営監視機能が有効に機能していると判断し、現状の体制を採用しております。

・内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備状況

1．取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

法令遵守（コンプライアンス）体制にかかる規程を制定し、代表取締役社長が繰り返しその精神を取締役及び使用人に伝えることにより、法令遵守をあらゆる企業活動の前提とすることを徹底します。

総務担当取締役を法令遵守担当取締役として、総務部が全社のコンプライアンスの取り組みを横断的に統括することとし、同部が役職員を中心に社員教育等を行います。

総務部及び監査役会と連携の上、法令遵守状況を監査し、定期的に取締役会に報告されるものとします。

2．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書管理規程に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書または電磁的媒体（以下、文書等という）に記録し、保存します。取締役及び監査役は文書管理規程により、常時、これらの文書等を閲覧できるものとします。

3．損失の危険の管理に関する規定その他の体制

法令遵守（コンプライアンス）、環境、災害、情報セキュリティ等に係るリスクについては、それぞれの担当部署にて、規則・ガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成・配布等を行うものとしますが、組織横断的リスク状況の監視及び全社的対応は総務部が行うものとします。新たに生じたリスクについては取締役会においてすみやかに対応責任者となる取締役を定めます。

4．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

「職務分掌並びに職務権限規程」等の社内規程により、取締役の責任を明確にいたします。

原則として、毎月1回以上の取締役会を開催し、経営計画に基づく月次・四半期業績管理を徹底し、迅速な意思決定と効率的な業務執行をいたします。

当社に影響を及ぼす重要事項については、取締役会で決定いたします。

5．使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

使用人が法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるため、「企業倫理規程」をはじめとするコンプライアンス体制にかかる規程を制定しております。またその徹底を図るため、総務部においてコンプライアンスの取り組みを総括することとし使用人の教育を行っております。

取締役会は法令遵守のための体制を含む内部統制システムの整備方針・計画について決定するとともに、定期的に総務部から状況報告を受けるものとする。

当社は「内部通報規程」を制定し、社内においてコンプライアンス違反行為が行われ、または行われようとしていることに気がついたときは、使用人が直接情報提供を行う内部通報体制を構築しております。

6．会社並びに親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

事業部門別の事業に関して責任を負う取締役を任命し、法令順守体制、リスク管理体制を構築する権限と責任を与えており、本社総務部はこれらを横断的に推進し、管理します。

7．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当社は監査役職務の補助使用人は設置しておりませんが、必要に応じて補助使用人を置くことといたします。

8．前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

補助使用人の人事異動・人事評価等については、監査役会の同意を得た上で決定することとし、取締役からの独立性を確保いたします。

9. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は、監査役会に対して、法定の事項に加え、当社に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況をすみやかに報告します。報告の方法（報告者、報告受領者、報告時期等）については、取締役会と監査役会の協議により決定するものとします。

10. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役会は代表取締役社長、専務取締役、監査法人とそれぞれ定期的に意見交換を開催することとしております。なお、監査役は、取締役会を含むすべての会議に出席できるものとします。

（反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方）

当社は、反社会的勢力とは一切関わりを持たず、不当な要求等に対しては、毅然とした姿勢で対応するなど、反社会的勢力による被害防止に努めております。

（反社会的勢力排除に向けた体制）

当社では、総務部を中心に反社会的勢力に関する情報を管理するほか、警察等の専門機関と連携をし、情報収集に努めております。万が一問題が生じた場合には、組織全体として速やかに対処できる体制を整備しております。

内部監査及び監査役監査、会計監査の状況

・内部監査

管理本部長を中心に管理部門の人員が定期的に、店舗管理及び運営について監査を実施し、所定の報告書に基づき取締役会に報告しております。

・監査役監査

監査役監査は、常勤監査役1名及び非常勤監査役2名により実施しております。監査役は取締役会に出席、常勤監査役は社内の重要な会議にも参加しており、取締役の業務執行につき監査を実施するとともに、法令、定款違反や株主の利益を侵害する事実の有無について重点的に監査を実施しております。

・会計監査

当社は、会社法に基づく会計監査人及び金融商品取引法に基づく会計監査に、有限責任 あずさ監査法人を選任しております。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
指定有限責任社員 業務執行社員 山下 隆	有限責任 あずさ監査法人
指定有限責任社員 業務執行社員 伊藤 孝明	有限責任 あずさ監査法人

なお、継続監査年数はいずれも7年未満であるため、省略しております。

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士8名、その他2名であります。

社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。

社外監査役清水貴志氏は、共栄火災海上保険株式会社本店営業部の副部長であります。当社は共栄火災海上保険株式会社との間に損害保険等の保険代理店業務等の取引関係があります。社外監査役佐原堅次氏は、ちば債権回収株式会社の取締役相談役であります。当社はちば債権回収株式会社との間には特別な関係はありません。

当社は、社外監査役が取締役会に出席及び社内の重要な会議にも参加しており、取締役会の業務執行について監査を実施するとともに、法令・定款違反や株主の利益を侵害する有無について重点的に監査を実施しているので経営の監視機能の面では十分に機能する体制が整っていると考えております。

また、社外監査役清水貴志氏は、金融業界の在職経験が長くあり、コンプライアンスに関する知識が豊富なため、社外監査役佐原堅次氏は経営者との利害関係がなく、経営に関する客観性や中立性が高いことから社外監査役に選任しております。

なお、監査役と会計監査人は定期的に会合を行い、監査実施状況の報告を行っております。

当社は社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しています。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労引当 金繰入額	退職慰労金	
取締役	38,645	37,350	-	1,295	-	4
監査役 (社外監査役を除く。)	4,676	4,540	-	136	-	1
社外役員	1,800	1,800	-	-	-	2

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

4銘柄 63,116千円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)千葉銀行	50,000	23,300	営業関係の強化目的
(株)京葉銀行	50,000	20,800	営業関係の強化目的
(株)千葉興業銀行	19,100	9,110	営業関係の強化目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	18,500	7,104	営業関係の強化目的

みなし保有株式

該当事項はありません。

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)千葉銀行	50,000	26,400	営業関係の強化目的
(株)京葉銀行	50,000	19,850	営業関係の強化目的
(株)千葉興業銀行	19,100	9,244	営業関係の強化目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	18,500	7,622	営業関係の強化目的

みなし保有株式

該当事項はありません。

ハ. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並び

に当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

保有目的が純投資目的である投資株式は保有しておりません。

取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役会にて決議できる株主総会決議事項

イ．自己の株式の取得

当社は、機動的な資本政策を遂行できるよう、会社法第165条第2項の規定にもとづき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

ロ．剰余金の配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）をすることができる旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
19,800	-	19,800	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、会社の規模、業務の特性等の要素を勘案して見積もられた監査予定日数から算出された金額について、双方協議の上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組として、監査法人や各種関係機関が主催する会計・税務に関するセミナーへの積極的な参加、会計税務関連出版物の購読等を通じて、会計基準等の変更等に対応しております。

1【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,060,731	701,802
売掛金	194,665	388,411
商品	973,474	1,267,463
部品及び用品	140,178	131,476
貯蔵品	6,308	5,585
販売用不動産	1,397,592	1,239,038
前払費用	25,158	23,393
繰延税金資産	157,379	25,803
未収入金	95,205	147,498
未収消費税等	-	12,307
未収還付法人税等	62,744	-
その他	5,873	41,051
貸倒引当金	220	420
流動資産合計	4,119,093	3,983,411
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,701,097	2,713,227
減価償却累計額	1,144,084	1,207,324
建物(純額)	1,557,013	1,505,903
構築物	498,701	500,930
減価償却累計額	427,340	433,129
構築物(純額)	71,360	67,801
機械及び装置	362,448	363,797
減価償却累計額	281,227	293,983
機械及び装置(純額)	81,221	69,814
車両運搬具	27,102	31,212
減価償却累計額	25,614	23,961
車両運搬具(純額)	1,487	7,250
工具、器具及び備品	169,861	172,596
減価償却累計額	145,247	155,337
工具、器具及び備品(純額)	24,614	17,259
賃貸不動産	950,362	960,797
減価償却累計額	422,272	441,066
賃貸不動産(純額)	528,090	519,730
貸与資産	265,580	234,632
減価償却累計額	226,066	198,012
貸与資産(純額)	39,513	36,619
土地	2,738,205	2,763,197
有形固定資産合計	5,041,507	4,987,576

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
無形固定資産		
ソフトウェア	16,647	9,253
電話加入権	15,306	15,306
施設利用権	11,681	10,593
無形固定資産合計	43,634	35,153
投資その他の資産		
投資有価証券	1 60,314	1 63,116
出資金	2,190	2,190
長期貸付金	65,382	60,885
長期前払費用	14,483	13,127
差入保証金	94,980	102,933
その他	46,739	49,703
投資その他の資産合計	284,090	291,957
固定資産合計	5,369,232	5,314,686
資産合計	9,488,326	9,298,097
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 440,457	1 506,604
短期借入金	1 1,850,000	1 2,050,000
1年内返済予定の長期借入金	1 1,611,246	1 692,692
未払金	70,952	86,313
未払費用	84,497	93,012
未払法人税等	-	190,226
未払消費税等	61,867	-
前受金	206,444	326,613
預り金	7,060	7,600
前受収益	3,524	3,429
賞与引当金	11,650	11,260
その他	26,367	34,590
流動負債合計	4,374,068	4,002,340
固定負債		
長期借入金	1 1,829,654	1 1,739,964
繰延税金負債	1,814	3,867
役員退職慰労引当金	27,589	29,021
資産除去債務	7,657	7,799
その他	60,874	65,925
固定負債合計	1,927,590	1,846,578
負債合計	6,301,659	5,848,918

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,387,297	1,387,297
資本剰余金		
資本準備金	348,297	348,297
その他資本剰余金	466,717	466,717
資本剰余金合計	815,014	815,014
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,183,450	1,444,182
利益剰余金合計	1,183,450	1,444,182
自己株式	199,839	200,011
株主資本合計	3,185,922	3,446,482
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	743	2,696
評価・換算差額等合計	743	2,696
純資産合計	3,186,666	3,449,178
負債純資産合計	9,488,326	9,298,097

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高		
売上高	7,493,587	8,481,548
整備売上高	2,332,093	2,221,491
不動産事業売上高	179,733	92,321
受取手数料	377,727	425,661
売上高合計	10,383,142	11,221,022
売上原価		
商品期首たな卸高	1,474,930	973,474
当期商品仕入高	6,319,958	7,973,173
整備原価	1,449,322	1,368,148
賃貸原価	59,139	67,324
不動産事業売上原価	425,588	196,783
他勘定受入高	¹ 2,386	¹ 3,525
合計	9,731,326	10,582,430
商品期末たな卸高	973,474	1,267,463
売上原価合計	² 8,757,852	² 9,314,966
売上総利益	1,625,289	1,906,056
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	75,150	84,350
無償修理費	5,718	3,460
貸倒引当金繰入額	-	200
販売手数料	3,109	3,868
役員報酬	41,160	43,690
従業員給料及び手当	423,846	440,573
従業員賞与	8,067	10,739
賞与引当金繰入額	10,410	10,320
役員退職慰労引当金繰入額	1,322	1,432
退職給付費用	22,571	23,313
福利厚生費	60,806	66,628
賃借料	109,670	109,564
修繕費	7,204	1,878
減価償却費	98,205	93,235
水道光熱費	41,583	33,625
保険料	19,967	19,833
燃料費	22,292	23,391
旅費及び交通費	22,781	23,090
通信費	35,918	36,348
租税公課	59,128	59,467
消耗品費	52,332	50,932
雑費	108,028	104,767
販売費及び一般管理費合計	1,229,276	1,244,711
営業利益	396,013	661,344

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業外収益		
受取利息	2,449	1,948
受取配当金	3,094	3,395
受取保険金	3,865	1,858
還付加算金	-	1,751
雑収入	4,999	3,852
営業外収益合計	14,407	12,807
営業外費用		
支払利息	81,194	58,287
雑損失	247	418
営業外費用合計	81,441	58,706
経常利益	328,980	615,445
特別損失		
固定資産除却損	3 77	3 11,340
投資有価証券評価損	13,596	-
減損損失	4 40,959	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,584	-
特別損失合計	59,217	11,340
税引前当期純利益	269,762	604,104
法人税、住民税及び事業税	5,132	182,557
法人税等調整額	136,101	132,779
法人税等合計	130,969	315,336
当期純利益	400,731	288,767

【整備原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		802,343	55.2	786,610	57.4
労務費	1	381,167	26.2	373,564	27.2
経費	2	271,077	18.6	211,186	15.4
当期総整備費用		1,454,587	100.0	1,371,360	100.0
他勘定振替高	3	5,265		3,212	
整備原価		1,449,322		1,368,148	

(注)

前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
<p>原価計算の方法は、個別原価計算を採用しております。</p> <p>1. 賞与引当金繰入額1,240千円が含まれております。 従業員給料手当330,922千円が含まれております。 退職給付費用17,411千円が含まれております。</p> <p>2. 外注加工費223,516千円が含まれております。 減価償却費17,321千円が含まれております。</p> <p>3. 販売費及び一般管理費(無償修理費)等への振替であります。</p>	<p>原価計算の方法は、個別原価計算を採用しております。</p> <p>1. 賞与引当金繰入額940千円が含まれております。 従業員給料手当310,200千円が含まれております。 退職給付費用17,275千円が含まれております。</p> <p>2. 外注加工費161,940千円が含まれております。 減価償却費15,383千円が含まれております。</p> <p>3. 販売費及び一般管理費(無償修理費)等への振替であります。</p>

【不動産事業売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
		金額(千円)	金額(千円)
期首販売用不動産棚卸高		1,787,630	1,397,592
当期販売用不動産仕入高		-	-
賃貸不動産原価		35,550	38,229
合計		1,823,180	1,435,821
期末販売用不動産棚卸高	1	1,397,592	1,239,038
不動産事業売上原価		425,588	196,783

前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1. 収益性の低下による簿価切下げ額を控除した金額によっております。	1. 収益性の低下による簿価切下げ額を控除した金額によっております。

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,387,297	1,387,297
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,387,297	1,387,297
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	348,297	348,297
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	348,297	348,297
その他資本剰余金		
当期首残高	466,717	466,717
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	466,717	466,717
資本剰余金合計		
当期首残高	815,014	815,014
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	815,014	815,014
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	813,814	1,183,450
当期変動額		
剰余金の配当	31,095	28,035
当期純利益	400,731	288,767
当期変動額合計	369,636	260,731
当期末残高	1,183,450	1,444,182
利益剰余金合計		
当期首残高	813,814	1,183,450
当期変動額		
剰余金の配当	31,095	28,035
当期純利益	400,731	288,767
当期変動額合計	369,636	260,731
当期末残高	1,183,450	1,444,182

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
自己株式		
当期首残高	77,450	199,839
当期変動額		
自己株式の取得	122,389	172
当期変動額合計	122,389	172
当期末残高	199,839	200,011
株主資本合計		
当期首残高	2,938,675	3,185,922
当期変動額		
剰余金の配当	31,095	28,035
当期純利益	400,731	288,767
自己株式の取得	122,389	172
当期変動額合計	247,247	260,559
当期末残高	3,185,922	3,446,482
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	673	743
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	70	1,952
当期変動額合計	70	1,952
当期末残高	743	2,696
評価・換算差額等合計		
当期首残高	673	743
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	70	1,952
当期変動額合計	70	1,952
当期末残高	743	2,696
純資産合計		
当期首残高	2,939,349	3,186,666
当期変動額		
剰余金の配当	31,095	28,035
当期純利益	400,731	288,767
自己株式の取得	122,389	172
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	70	1,952
当期変動額合計	247,317	262,511
当期末残高	3,186,666	3,449,178

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	269,762	604,104
減価償却費	166,427	168,471
投資有価証券評価損益 (は益)	13,596	-
減損損失	40,959	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,584	-
賞与引当金の増減額 (は減少)	15,640	390
貸倒引当金の増減額 (は減少)	40	200
役員退職慰労引当金の増減額 (は減少)	1,322	1,432
受取利息及び受取配当金	5,543	5,344
支払利息	81,194	58,287
固定資産除却損	77	11,340
売上債権の増減額 (は増加)	57,764	193,745
たな卸資産の増減額 (は増加)	874,707	126,009
仕入債務の増減額 (は減少)	142,634	66,147
その他	128,045	12,860
小計	1,474,583	571,633
利息及び配当金の受取額	5,543	5,344
利息の支払額	81,249	59,088
法人税等の還付額	-	64,571
法人税等の支払額	120,328	3,807
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,278,549	578,653
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	285,472	185,718
定期預金の預入による支出	285,718	185,797
有形固定資産の取得による支出	13,867	67,686
有形固定資産の除却による支出	-	10,800
その他	4,315	4,404
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,798	74,160
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	-	200,000
長期借入れによる収入	300,000	350,000
長期借入金の返済による支出	1,153,977	1,358,244
リース債務の返済による支出	22,985	26,979
自己株式の取得による支出	122,389	172
配当金の支払額	31,085	28,106
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,030,437	863,501
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	238,312	359,008
現金及び現金同等物の期首残高	636,700	875,013
現金及び現金同等物の期末残高	875,013	516,005

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 部品及び用品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(3) 販売用不動産

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(4) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

(イ) リース資産以外の有形固定資産

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(ロ) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

(イ) リース資産以外の無形固定資産

ソフトウェア（自社利用分）……社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

その他……………定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(ロ) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

(3) 長期前払費用

3年間で均等償却しております。

なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員に対する退職慰労の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金利息

(3) ヘッジ方針

当社の内部規定に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

6. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
定期預金	179,639千円	- 千円
販売用不動産	702,465	635,738
建物	1,535,090	1,487,253
賃貸不動産	528,090	509,347
土地	2,736,978	2,736,978
投資有価証券	58,025	60,793
商品	1,729	-
計	5,742,017	5,430,111

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
買掛金	56,036千円	68,072千円
短期借入金	1,850,000	2,050,000
長期借入金(含1年以内返済予定分)	3,440,900	2,432,656

当社の金融機関からの借入金について、当社は一部土地建物等を担保に供するとともに、当社の金融機関等からの借入金(前事業年度5,290,900千円、当事業年度4,482,656千円)について当社の代表取締役社長西條徳三が個人として債務保証を行っております。

なお、当社は当該債務保証について保証料の支払い及び担保の提供は行っておりません。

(損益計算書関係)

1. 他勘定受入高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
貸与資産からの受入高	2,386千円	3,525千円

2. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	85,739千円	238,554千円

3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
建物	- 千円	40千円
機械及び装置	77	-
構築物	-	499
除却費用	-	10,800
計	77	11,340

4. 減損損失

前事業年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失
千葉県船橋市	営業店舗、整備工場	建物及び構築物	40,959千円

当社は、車両販売関連事業については店舗単位に、賃貸用不動産及び遊休不動産については個別にグループ化し減損損失の判定を行いました。

その結果、上記の資産については、建物等の取壊しが決定したことに伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減損しております。その内訳は、建物39,855千円及び構築物1,103千円であります。

なお、回収可能価額は、建物等については零としております。

当事業年度（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	6,529,114	-	-	6,529,114
合計	6,529,114	-	-	6,529,114
自己株式				
普通株式	310,054	611,899	-	921,953
合計	310,054	611,899	-	921,953

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加611,899株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加610,000株、単元未満株式の買取りによる増加1,899株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	31,095	5	平成22年3月31日	平成22年6月25日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	28,035	利益剰余金	5	平成23年3月31日	平成23年6月24日

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	6,529,114	-	-	6,529,114
合計	6,529,114	-	-	6,529,114
自己株式				
普通株式	921,953	960	-	922,913
合計	921,953	960	-	922,913

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加960株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	28,035	5	平成23年3月31日	平成23年6月24日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	28,031	利益剰余金	5	平成24年3月31日	平成24年6月27日

（キャッシュ・フロー計算書関係）

1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）	当事業年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
現金及び預金勘定	1,060,731千円	701,802千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	185,718	185,797
現金及び現金同等物	875,013	516,005

（リース取引関係）

ファイナンス・リース取引

所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

車両販売関連事業におけるレンタカー車両（貸与資産）であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。デリバティブは、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び未収入金は、顧客及び取引先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金はそのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であり、また、前受金については1年以内に決済される予定のものであります。

借入金は主に営業取引や設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうちの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ)をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

金融商品に係るリスク管理体制

・信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、販売管理規程に基づき営業債権について各部門が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先毎に期日及び残高を管理するとともに、債権の回収に努めております。

デリバティブ取引については、取引相手先を信頼度の高い国内金融機関に限定しているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

・市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、投資有価証券については、経理部において定期的に時価を把握しております。

・資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部門からの報告に基づき、経理部が適時に資金繰計画を作成すると共に、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算出された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認めるものは、次表に含まれておりません(下記(注2)参照)。

前事業年度(平成23年3月31日)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,060,731千円	1,060,731千円	- 千円
(2) 売掛金	194,665千円		
(3) 未収入金	95,205千円		
貸倒引当金	220千円		
	289,651千円	289,651千円	- 千円
(4) 投資有価証券	60,314千円	60,314千円	- 千円
資産計	1,410,697千円	1,410,697千円	- 千円
(1) 買掛金	440,457千円	440,457千円	- 千円
(2) 短期借入金	1,850,000千円	1,850,000千円	- 千円
(3) 前受金	206,444千円	206,444千円	- 千円
(4) 長期借入金()	3,440,900千円	3,445,366千円	4,466千円
負債計	5,937,801千円	5,942,268千円	4,466千円
デリバティブ取引	-	-	-

() 一年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 売掛金、(3) 未収入金

これらは、短期間で決済されるものが大部分であります。信用リスクを個別に把握することが困難なため、貸倒引当金を信用リスクと見做し、時価を算定しております。

(4) 投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 前受金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金の一部は金利スワップの特例処理の対象とされており(注記事項 デリバティブ取引関係 2参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

当事業年度(平成24年3月31日)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	701,802千円	701,802千円	- 千円
(2) 売掛金	388,411千円		
(3) 未収入金	147,498千円		
貸倒引当金	420千円		
	535,490千円	535,490千円	- 千円
(4) 投資有価証券	63,116千円	63,116千円	- 千円
資産計	1,300,409千円	1,300,409千円	- 千円
(1) 買掛金	506,604千円	506,604千円	- 千円
(2) 短期借入金	2,050,000千円	2,050,000千円	- 千円
(3) 未払法人税等	190,226千円	190,226千円	- 千円
(4) 前受金	326,613千円	326,613千円	- 千円
(5) 長期借入金()	2,432,656千円	2,438,578千円	5,922千円
負債計	5,506,099千円	5,512,022千円	5,922千円
デリバティブ取引	-	-	-

() 一年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 売掛金、(3) 未収入金

これらは、短期間で決済されるものが大部分であります。信用リスクを個別に把握することが困難なため、貸倒引当金を信用リスクと見做し、時価を算定しております。

(4) 投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等、(4) 前受金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金の一部は金利スワップの特例処理の対象とされており(注記事項「デリバティブ取引関係」2参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
差入保証金	94,980千円	102,933千円

上記については市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には記載しておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,060,731	-	-	-
売掛金	194,665	-	-	-
未収入金	95,205	-	-	-
貸倒引当金	220	-	-	-
	289,651	-	-	-
合計	1,350,382	-	-	-

当事業年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	701,802	-	-	-
売掛金	388,411	-	-	-
未収入金	147,498	-	-	-
貸倒引当金	420	-	-	-
	535,490	-	-	-
合計	1,237,292	-	-	-

(注4) 長期借入金の決算日後の返済予定額

附属明細表「借入金等明細表」をご参照ください。

(有価証券関係)

その他有価証券

前事業年度(平成23年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	44,100	37,953	6,146
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	44,100	37,953	6,146
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	16,214	20,863	4,648
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	16,214	20,863	4,648
	合計	60,314	58,816	1,497

減損処理を行った有価証券

当事業年度において、有価証券について13,596千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当事業年度(平成24年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	46,250	37,953	8,296
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	46,250	37,953	8,296
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	16,866	20,863	3,997
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	16,866	20,863	3,997
	合計	63,116	58,817	4,299

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前事業年度(平成23年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例 処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	80,000	40,000	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金と一体として処理されているため、その時価は当該借入金の時価に含めて記載しております。

当事業年度(平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例 処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	40,000	-	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金と一体として処理されているため、その時価は当該借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金制度及び厚生年金基金制度を設けております。

従来、適格退職年金制度を採用しておりましたが、平成15年10月1日付で、適格退職年金制度を廃止し確定拠出年金制度へ移行しております。

当社が加入する厚生年金基金(代行部分を含む)は総合設立型厚生年金基金であり、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該年金基金への要拠出額を退職給付費用として計上しております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
年金資産の額(千円)	20,426,878	20,188,759
年金財政計算上の給付債務の額(千円)	26,204,106	25,672,978
差引額(千円)	5,777,227	5,484,219

(2) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合

前事業年度 3.03%(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

当事業年度 3.56%(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額的主要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前事業年度4,301,013千円、当事業年度3,864,646千円)及び繰越不足額(前事業年度1,476,214千円、当事業年度1,619,573千円)であります。

未償却過去勤務債務の償却残余期間は前事業年度19年、当事業年度18年であります。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しません。

2. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
退職給付費用(千円)	39,983	40,589
確定拠出年金への掛け金支払額(千円)	10,829	10,592
厚生年金基金への掛け金支払額(千円)	29,153	29,996

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	- 千円	14,078千円
未払事業所税	2,955	2,758
賞与引当金否認額	4,718	4,256
販売用不動産評価損否認額	633,998	610,327
一括償却資産限度超過額	343	301
減損損失否認額	21,462	4,260
役員退職慰労引当金否認額	11,173	10,273
資産除去債務否認額	3,101	2,760
投資有価証券否認額	5,506	4,813
繰越欠損金	135,268	-
その他	1,894	4,502
繰延税金資産小計	820,422	658,332
評価性引当額	659,219	632,529
繰延税金資産合計	161,202	25,803
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	753	1,603
未収事業税	3,823	-
その他	1,060	2,264
繰延税金負債合計	5,637	3,867
繰延税金資産の純額	155,565	21,936
繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。		
流動資産・・・繰延税金資産	157,379千円	25,803千円
固定負債・・・繰延税金負債	1,814	3,867

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.5%	40.5%
住民税均等割	1.9	0.9
評価性引当額	91.1	10.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	0.2
その他	0.2	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	48.5	52.2

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.5%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については37.8%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.4%となります。

この税率変更により、繰延税金資産は1,843千円減少(繰延税金負債は557千円減少)し、法人税等調整額が1,516千円、その他有価証券評価差額金が230千円、それぞれ増加しております。

(持分法損益等)

関連会社がないため、該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

営業店舗・整備工場用施設の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から10年から24年と見積り、割引率は1.395%から2.258%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
期首残高(注)	7,518千円	7,657千円
時の経過による調整額	139	142
期末残高	7,657	7,799

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(賃貸等不動産関係)

当社では、千葉市やその他の地域において、賃貸収入を得る事を目的として賃貸住宅や賃貸用のオフィスビル(土地を含む)を所有しております。前事業年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は59,793千円(賃貸収益は売上高に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。当事業年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は54,092千円(賃貸収益は売上高に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
貸借対照表計上額		
期首残高	921,981	903,329
期中増減額	18,652	16,631
期末残高	903,329	919,960
期末時価	757,523	768,337

(注) 1. 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前事業年度の主な減少額は減価償却費(18,652千円)であります。当事業年度の主な増加額は不動産取得(35,425千円)であり、主な減少額は減価償却費(18,794千円)であります。

3. 期末の時価は、主として路線価及び適正な帳簿価額に基づいて算定した金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に事業本部を置き、包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しており、「車両販売関連事業」及び「不動産事業」の2つを報告セグメントとしております。

「車両販売関連事業」は、新車（輸入車含む）、中古車、自動車の部品・用品の販売、自動車の修理、自動車のレンタル業、損害保険等の代理業務等を行っております。「不動産事業」は、不動産の売買・賃貸を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」の記載と同一であります。

報告されているセグメント利益又は損失（ ）は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：千円）

	車両販売関連	不動産	調整額（注1）	財務諸表計上額 （注2）
売上高				
外部顧客への売上高	10,203,408	179,733	-	10,383,142
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	10,203,408	179,733	-	10,383,142
セグメント利益又は損失 （ ）	641,868	245,854	-	396,013
セグメント資産	7,204,826	1,926,171	357,328	9,488,326
その他の項目				
減価償却費	147,775	18,652	-	166,427
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	74,080	-	-	74,080

（注）1. セグメント資産の調整額357,328千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、全社資産は主に現金及び預金であります。

2. セグメント利益又は損失（ ）は、損益計算書の営業利益と一致しております。

当事業年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）
（単位：千円）

	車両販売関連	不動産	調整額（注1）	財務諸表計上額 （注2）
売上高				
外部顧客への売上高	11,128,701	92,321	-	11,221,022
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-
計	11,128,701	92,321	-	11,221,022
セグメント利益又は損失 （ ）	765,806	104,461	-	661,344
セグメント資産	7,145,438	1,759,477	393,181	9,298,097
その他の項目				
減価償却費	149,677	18,794	-	168,471
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	99,208	10,434	-	109,642

（注）1．セグメント資産の調整額393,181千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、全社資産は主に現金及び預金であります。

2．セグメント利益又は損失（ ）は、損益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメントの区分と同一であるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメントの区分と同一であるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）
（単位：千円）

	車両販売関連	不動産	合計
減損損失	40,959	-	40,959

当事業年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）
該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

前事業年度（自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者	西條徳三	-	-	当社代表取締役	被所有 直接 27.9%	-	-	当社の借入金に対する債務被保証	5,290,900	-	-
								当社の仕入債務に対する債務被保証等	230,457	-	-
								当社の預り敷金に対する債務被保証	22,075	-	-
								当社の営業保証金としての被担保提供	54,220	-	-
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	(株)ファミリー商事	千葉県千葉市若葉区	81,280	公衆浴場・不動産事業	所有 - % 被所有 直接 0.0%	兼任 1人	-	自己株式の取得	122,000	-	-

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

当社の金融機関からの借入5,290,900千円に対して、代表取締役西條徳三氏が個人として債務保証を行っております。

当社の仕入債務230,457千円に対して、代表取締役西條徳三氏が個人として債務保証を行っております。

当社の預り敷金22,075千円に対して代表取締役西條徳三氏が個人として債務保証を行っております。

ポルシェジャパン(株)に対する営業保証金として、代表取締役西條徳三氏が個人として担保提供を行っております。

金融機関からの借入及び仕入債務、預り敷金に対しての債務保証並びに担保提供に関する代表取締役西條徳三氏への保証料の支払いはありません。

大阪証券取引所のJ-NET市場（終値取引）により自己株式を取得しております。

(株)ファミリー商事との取引は、第三者のために行った取引であります。

2. 上記取引金額には消費税等は含んでおりません。

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者	西條徳三	-	-	当社代表取締役	被所有 直接 25.7%	-	-	当社の借入金に対する債務被保証	4,482,656	-	-
								当社の仕入債務に対する債務被保証等	206,080	-	-
								当社の預り敷金に対する債務被保証	20,410	-	-
								当社の営業保証金としての被担保提供	68,072	-	-

（注）1．取引条件ないし取引条件の決定方針等

当社の金融機関からの借入4,482,656千円に対して、代表取締役西條徳三氏が個人として債務保証を行っております。

当社の仕入債務206,080千円に対して、代表取締役西條徳三氏が個人として債務保証を行っております。

当社の預り敷金20,410千円に対して代表取締役西條徳三氏が個人として債務保証を行っております。

ポルシェジャパン㈱に対する営業保証金として、代表取締役西條徳三氏が個人として担保提供を行っております。

金融機関からの借入及び仕入債務、預り敷金に対しての債務保証並びに担保提供に関する代表取締役西條徳三氏への保証料の支払いはありません。

2．上記取引金額には消費税等は含んでおりません。

（1株当たり情報）

	前事業年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）	当事業年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
1株当たり純資産額	568.32円	615.24円
1株当たり当期純利益金額	66.63円	51.51円

（注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）	当事業年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
当期純利益金額（千円）	400,731	288,767
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額（千円）	400,731	288,767
期中平均株式数（株）	6,014,072	5,606,574

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
		株千葉銀行	50,000	26,400
株京葉銀行	50,000	19,850		
株千葉興業銀行	19,100	9,244		
株三菱UFJフィナンシャル・グループ	18,500	7,622		
	計	137,600	63,116	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	2,701,097	12,347	217	2,713,227	1,207,324	63,416	1,505,903
構築物	498,701	7,204	4,975	500,930	433,129	10,263	67,801
機械及び装置	362,448	1,349	-	363,797	293,983	12,755	69,814
車両運搬具	27,102	9,060	4,950	31,212	23,961	3,247	7,250
工具、器具及び備品	169,861	2,735	-	172,596	155,337	10,090	17,259
賃貸不動産	950,362	10,434	-	960,797	441,066	18,794	519,730
貸与資産	265,580	41,521	72,468	234,632	198,012	40,975	36,619
土地	2,738,205	24,991	-	2,763,197	-	-	2,763,197
有形固定資産計	7,713,360	109,642	82,611	7,740,392	2,752,815	159,543	4,987,576
無形固定資産							
ソフトウェア	-	-	-	38,444	29,190	7,393	9,253
電話加入権	-	-	-	15,306	-	-	15,306
施設利用権	-	-	-	33,245	22,652	1,088	10,593
無形固定資産計	-	-	-	86,996	51,842	8,481	35,153
長期前払費用	15,320 (13,494)	- (-)	1,051 (1,051)	14,269 (12,442)	1,141	304	13,127

(注) 1. 当期増減額の主なものは次のとおりであります。

種類	内容	金額(千円)
(増加)		
貸与資産	レンタカー取得費用	41,521
土地	市川市賃貸物件用地	24,991
(減少)		
貸与資産	レンタカー売却	72,468

- 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。
- 長期前払費用の()内の金額は内数で、建設協力金(家賃相当分)の前払に係るものであり、減価償却と性格が異なるため、償却累計額及び当期償却額には含めておりません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,850,000	2,050,000	0.9	-
1年以内に返済予定の長期借入金	1,611,246	692,692	1.2	-
1年以内に返済予定のリース債務	26,367	34,590	1.5	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,829,654	1,739,964	1.3	平成25年～ 平成31年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	32,919	39,238	1.4	平成25年～ 平成27年
合計	5,350,186	4,556,484	-	-

(注) 1. 平均利率は期末残高を使用した加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	796,104	610,610	161,000	61,000
リース債務	25,073	12,539	1,624	-

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	220	420	-	220	420
賞与引当金	11,650	11,260	11,650	-	11,260
役員退職慰労引当金	27,589	1,432	-	-	29,021

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

【資産除去債務明細表】

当事業年度期首及び当事業年度末における資産除去債務の金額が、当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第125条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

1) 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	34,214
預金の種類	
普通預金	400,759
別段預金	1,025
定期預金	265,803
小計	667,588
合計	701,802

2) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
ちばぎんJCBカード㈱	14,286
日立キャピタル㈱	13,120
三菱UFJニコス㈱	12,783
ユーシーカード㈱	6,825
三井住友カード㈱	5,128
その他	336,266
合計	388,411

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D)
					2
					(B)
					366
194,665	11,208,265	11,014,519	388,411	96.6	9.5

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

3) 商品

品目	金額(千円)
新車	463,998
中古車	801,171
その他	2,294
合計	1,267,463

4) 部品及び用品

品目	金額(千円)
整備用	131,476
合計	131,476

5) 貯蔵品

品目	金額(千円)
切手・印紙	2,429
印刷物	2,094
商品券	140
販促品	737
制服	183
合計	5,585

6) 販売用不動産

品目	金額(千円)
土地	1,239,038
合計	1,239,038

(注) 上記の内、土地の内訳

地域別	面積(m ²)	金額(千円)
千葉県成田市	40,011	635,738
千葉県館山市	64,886	569,663
千葉県鴨川市	19,461	13,255
その他	75,475	20,382
計	199,833	1,239,038

負債の部

1) 買掛金

相手先	金額(千円)
フォルクスワーゲン・ファイナンシャル・サービス・ジャパン(株)	268,810
ポルシェジャパン(株)	68,072
ジャガー・ランドローバー・ジャパン(株)	64,612
フォルクスワーゲン・グループ・ジャパン(株)	23,732
クライスラー日本(株)	14,940
その他	66,435
合計	506,604

2) 短期借入金

相手先	金額(千円)
(株)千葉銀行	1,050,000
(株)京葉銀行	400,000
(株)みずほ銀行	400,000
(株)商工組合中央金庫	200,000
合計	2,050,000

3) 1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)三菱東京UFJ銀行	300,092
(株)千葉銀行	213,000
(株)商工組合中央金庫	119,600
(株)みずほ銀行	60,000
合計	692,692

4) 長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)商工組合中央金庫	709,200
(株)千葉銀行	435,750
(株)みずほ銀行	345,000
(株)三菱東京UFJ銀行	250,014
合計	1,739,964

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高(千円)	2,494,581	5,345,481	8,006,192	11,221,022
税引前四半期(当期)純利益金額(千円)	171,437	370,418	541,066	604,104
四半期(当期)純利益金額(千円)	100,526	217,471	314,824	288,767
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	17.93	38.79	56.15	51.51

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は損失金額()(円)	17.93	20.86	17.37	4.65

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支社
取次所 買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	日本経済新聞
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利及び募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡を請求する権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7条1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第38期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月23日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月23日に関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第39期第1四半期）（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）平成23年8月12日関東財務局長に提出

（第39期第2四半期）（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）平成23年11月11日関東財務局長に提出

（第39期第3四半期）（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成24年2月10日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年6月24日に関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月26日

株式会社ファミリー

取締役会 御中

有限責任 あず さ 監 査 法 人

指定有限責任社員 公認会計士 山下 隆 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 孝明 印
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファミリーの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第39期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ファミリーの平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ファミリーの平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ファミリーが平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しておりません。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。